

# 「クローン病手記」横川 昌永 31歳

2013年9月5日

## クローン病完治の記録

はじめに

この手記をご覧になった方へお伝えしたい事があります。それは、「クローン病は完治する」という事、ただ一つです。みなさんは松本医院を訪ねるまでの間、人一倍の頑張りと努力をされたと思います。どこの病院に行ってもクローン病と診断すらされずたらい回しにされたり、クローン病と診断されたらされたで、まず一言目に「完治しません」、「すぐにステロイド」、「だめなら手術しよう」。その後はたくさんの薬を飲んで、絶食、エレンタール、ビチューなどなど、根気と体力のある治療を続けて完治のために頑張ってきたと思います。その努力がいつに実る時がきました。拙い文書ですが、この手記がみなさんのこれからの楽しい人生の一助となれば幸いです。

## 私の症状と経過

私の症状は、気を失うくらいの大量下血と下痢です。入院した病院の先生からは、かなり稀なタイプだと言われました。今では下血の症状はなく下痢の症状だけになりましたが、その先生の言葉どおり稀なタイプのため治療のしかたにもかなり悩みました。

下血の症状が出たのは27歳のとき、正月に少し食べ過ぎたかな？といった感じの下痢をしていたら突然大量の下血をし、意識を失って病院へ救急車で運ばれました。当直の先生からは一時的な腸炎と言われ、点滴をした後に帰宅。その後数日間は食べ物に気をつかうくらいで、何の不自由もなく過ごしました。

その半年後にも同じ症状が出たので、これはおかしいと思い大学病院で検査をしましたが、担当の先生からは、「大腸は異常ありません。あと疑うとしたら小腸ですが、可能性は低いと思います。それでも調べたければ1週間くらい検査入院が必要ですが、どうされますか？」と言われ、その時は仕事に追われていたため断り、いつもどおりに生活しました。

そして2年後の29歳のとき、3回目の下血をしたのですが、この時は数日たっても下血が止まらず生活するのが困難になり入院し、そこで初めてクローン病と診断されました。

最初にクローン病と言われた時は、遺伝子でも悪いのか！？と得体の知れ

ない病気への不安と、先生に言われた「完治しない病気です。でも、一生薬を飲み続けて食事制限をすれば大丈夫」との言葉にかなり落ち込みました。今考えると、自信をもって完治しないと言うお医者さんがいるのも不思議だなあとと思います。病気を治すのがお医者さんだと思うのですが。入院してからの治療は定番の絶食IVH、ペントサ1日3錠、レミケード、イスコチン1日3錠、エレンタール1日3～5袋を経口とビチューでとり続ける毎日でした。ステロイドや免疫調整剤もすすめられましたが、当時の彼女（今の奥さん）の助言もあって断りました。

これで下血が治ったかというところではなく、その後も入退院を4回繰り返しました。最初の退院から4ヶ月後に再発、次は2ヶ月後、その次は1ヶ月後といった具合に、入院してから症状はどんどん悪化するばかりでした。入院する度に先生から言われたのが、ステロイド、免疫抑制剤、手術しようの繰り返しでした。ステロイドと免疫調整剤を使うつもりは最初からなかったのが断りましたが、迷ったのが手術です。私と似た症状の患者さんが手術で良くなったという話をされ、迷いに迷いました。先生も、私のような下血症状にはなす術なしといった感じだったのでとにかく悩みましたが、

「どこから出血してるかわかるんですか？」と質問したところ、

「わからない。お腹を切ってから考える」との答えに納得がいかず、手術もやめました。どこが悪いのかわからない人に、自分を傷つけられてたまるか！と、この時強く思いました。といった具合に、症状がどんどん悪くなったことと、苦しんでいる患者のことを何も考えないお医者さんにうんざりして、何か根本的に治療方法を変えようと考えようになり、最後の入院を機にそれまでの薬を全部やめて、妻とその父母がすすめてくれたマクロビオティックと呼ばれる食事療法を始めました。30歳の時です。

妻とまわりの人たちの支えのおかげで下血の症状はその後一切なくなりましたが、半年過ぎたころから今度は慢性的な下痢の症状が続き、体重が徐々に減って栄養失調から足にむくみが出るようになりました。

そしてたどり着いたのがこの松本医院です。きっかけは妻がインターネットで探してくれた患者さんの手記と、松本先生の論文でした。論文には、なぜ巷の病院の治療がダメなのかと、完治する理論がとても丁寧に、熱意のこもった言葉で書かれており、以前の病院の治療は良くないと感じていた自分の考えと一致したため、迷わず松本医院を訪ねました。

31歳、平成25年7月の時です。

幸いにも、私は投薬の量が少なかったこともあるのか、今の時点でアレルギー反応はあまり出ていないのですが、思い返すと食事療法を始めてしばらくしてから、腰のまわりがかゆかった時期がありました。私はもともと乾燥肌で、

毎年冬になると決まって腰のまわりがかゆくなるので、その時はいつもよ

りかゆい部分が増えたなあ程度に思っていたのですが、ひよっとすると既にアレルギー反応が出ていたのかなと思います。

現在は、漢方の飲用と鍼灸、漢方風呂による治療を続けており、下痢の症状は治まっています。漢方は正直おいしくないですが、フレーバー無しのエレンタールよりは格段においしいです。(あくまで個人の意見ですが)

終わりに

はじめに私が言った「クローン病は完治する」といった根拠、それは私自身が松本医院の治療により体調が良くなっている実感です。巷のお医者さんが欲しがるといふ科学的根拠はありませんが、自信はあります。

自信をくれたのは松本先生と、松本医院の患者さんの手記です。

先生は「クローン病は完治する。好きな物を食べていい。そして治すのはお前自身や！！」と、以前入院していた病院の先生と真逆で、とても気持ちのこもった言葉をくれました。そして、患者さんの手記も、きめ細かな経緯と手記を見た人への応援メッセージが書かれており、とても励みになりました。

松本先生と患者さんに感謝するとともに、この手記をご覧になったみなさまのご多幸をお祈りしております。